

平成25年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

				石川県立羽咋工業高等学校	
重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）	
1 授業改善に一層取り組み、学力向上を図るとともに資格取得を奨励し、生徒全員の進路実現をめざす。	① 研究協議会やシラバスの内容を改善するとともに、新学習指導要領に沿った評価規準により授業の質を高め、学校全体で授業改善に取り組む。	各教科と学科で授業改善についての取組を A 各学期に3回以上取り組んだ B 各学期に2回取り組んだ C 各学期に1回取り組んだ D 全く取り組むことができなかった	教職員対象に 12月にアンケート調査 A：28% B：55% C：14% D：3% 評価：A・B合わせて83%	アンケート結果はA・B合わせて83%となり、判定基準の75%をクリアした。今年度は新学習指導要領の実施に伴い、2学期の研究授業では「言語活動の充実」を意識した取組が行われた他、書画カメラ等の視聴覚機器の活用も行われ、互観授業も少しずつ充実してきたためと考えられる。 次年度に向けては、昨年の最終評価と同じ結果となったが、Aの割合が減少しており全員の複数回の授業改善にまで至っていない現状もあり、今後も改善意識を高めていく必要がある。判定基準は継続し、次年度もさらにより授業改善の質を高めていきたい。	
	② 学力向上を図るために授業の課題やレポート内容を工夫するとともに、授業と資格取得の補習指導を通して家庭での学習習慣を身に付けさせる。	課題・レポート・資格取得などや家庭での学習活動について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：22% B：54% C：21% D：3% 評価：A・B合わせて76%	アンケート結果は、A・B合わせて76%となり、中間評価の88%から減少し、2年連続判定基準の80%をクリアできなかった。また、A「十分取り組むことができた」の減少幅が大きく、朝・昼・放課後・夕方以降の補習時間の大幅な増加により、学校で家庭での学習課題の指導を行ったためであると考えられ、まだまだ、家庭での学習に繋がっていない。 次年度に向けては、資格・検定のハイレベルな合格者数が増加していることを考えると、判定基準は継続し、補習後の家庭学習を行うように指導を工夫し、家庭での自発的学習を増加させたい。	
	③ 全教員が愛読書を薦めたり、昼食時の出前図書などの読書運動を全校的にを行い、生徒に読書の習慣を身につけさせる。	2学期末での貸し出し図書数が A 300冊以上 B 270冊～299冊 C 220冊～269冊 D 220冊未満	12月末に調査 1233冊 評価：A	昨年度は貸出数274冊だったので、目標を生徒一人当たり1冊以上で、2学期末には300冊以上としたが、1学期末ですべて321冊、2学期末では1233冊であった。生徒1人当たり3.5冊であった。昨年度の貸出数が少なすぎたためか、今年度は大幅に増加した。総数が増加したのはよいが、一人で100冊以上借りる生徒がいる一方で、全体の4割近い生徒が1冊も借りない現状もある。貸し出し総数に加え、何割の生徒が本を借りたかも目標に、次年度は取り組みたい。	
	④ 資格・検定取得の説明機会を増やして受験を奨励するとともに、課外補習をさらに充実させ合格者数を増加させる。	1月末での資格・検定試験延べ合格者数が学校全体で A 750人以上 B 650人～750人未満 C 500人～650人未満 D 500人未満	1月末の資格・検定試験合格者数を検証 1月末現在938人 評価：A	1月末現在の集計では、資格・検定試験合格者数は938人となり、判定基準であるB評価（650人以上）を達成できた。2学期以降に受検した多くの資格・検定について、工業3学科の連携した受験奨励および補習（朝・昼・放課後・夜）の充実等により目標が達成できたと考えられる。 今年度の3月末までの受験者総数は、ほぼ前年度並の予定であり、次年度は判定基準を50人増加して実施し、受験奨励と指導の充実により合格者数を増加させ、学力向上と進路実現につなげたい。	
	⑤ ジュニアマイスターのゴールドおよびゴールド特別表彰、シルバー、校内顕彰プロンズの取得を目指し、学校全体で多くの資格・検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させる。	ジュニアマイスターおよび校内認定者数が学校全体で A 60人以上 B 50人～59人 C 40人～49人 D 39人以下	1月の申請者数を検証 120人 (ゴールド41人) (シルバー37人) (ブロンズ42人) 評価：A (参考 特別表彰8人)	1月末現在の集計で、認定者数合計はゴールド・シルバーの合計が78人で過去最高となり、校内顕彰の「ブロンズ」を入れなくてもA評価となった。また、今年度は「ゴールド特別表彰」が過去最高の8人となり、昨年から引き続き現3年生の申請者が多数出たため達成できた。しかし、2年生のゴールド申請者が例年並になり、難易度の高い資格・検定合格に向けて、学校全体への働きかけと補習等のさらなる充実が課題となった。 次年度も申請者数の変動を考慮して同じ判定基準で実施し、3年間通して3種類の顕彰申請とゴールド特別表彰を目指し、学校全体で資格・検定への挑戦意識を高めて上位の認定者数を増加させたい。	
	⑥ インターンシップや地元企業説明会などを通して適切な進路選択を促進させるとともに、進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行なう。	各種進路指導行事・LHなどによる説明や配布した進路情報により、意識が高まった生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	生徒対象に 12月にアンケート調査 93% 評価：A	意識が高まった生徒は、全体で93%であり評価はAである。中間評価は、全体で91%であり、意識が高まっている。今年度は、12月に「地元企業で働く卒業生と語る会」を1、2年生全員に実施した。自分の進路に役立ったという生徒は、93.2%と好評であった。進路意識を早い時期から意識させていくことが自己実現には大切であると考え、次年度も学年団や各工学科と協力して行事や学年ごとで必要とされる進路資料の作成、活用方法を検討し、計画的に取り組んでいきたい。	
	⑦ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。 基礎学力の定着を図り、試験対策を十分に行う。 外部講師による講演や面接指導、全教員による個別面談・指導を充実させる。	学力テストや面接指導等により、実力がついた割合が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満 学校幹旋就職試験の第1回目試験での内定率が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	3年生を対象に 12月にアンケート調査 93% 評価：A 3年生を対象に 秋に調査 94% 評価：A	実力がついたと思う生徒は、93%であった。評価はAである。毎朝のSHで3分間スピーチの取り組みを行い表現力を強化し、夏休みを利用しての基礎学力の補習も行ってきた。7月からは、面接指導を学年会や工業各科、管理職と協力し、本試験まで繰り返し行ってきた。また今年度も2年生の学年会と協力し、基礎問題演習の取組を行っている。次年度も、企業の求める人材について積極的に研究し、その力を継続的につけさせる様に、効果的な指導を行ってきたい。 1回目の内定率は、94%で評価はAである。求人件数は、昨年度より60件ばかり増加した。就職希望者も、70%後半でここ数年落ち着いてきている。今年度の特徴として、求人件数は、製造業はほぼ昨年度並みで安定してきているが、企業の応募者の競争が厳しくなってきた。1回目で残念であった生徒も2回目では、全員内定を得た。次年度は、普段の指導を継続させると共に、企業が求める人材の情報を積極的に集め、計画的に対応していきたい。	
学校関係者評価委員会の評価	社会の動向を知ったり文章を書いたりするためには、日頃から本に親しむことが大切である。資格取得で実績をあげていることはすばらしい。学業や資格取得の指導、生徒指導、生徒会活動の指導が熱心に行われており、今後も継続してほしい。地域の活性化・発展のために生徒たちが地元で就職するように今後も一層指導に取り組んでほしい。				
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	今後とも読書量が増える取り組みをしていく。今年度は3年生が資格取得に熱心に取り組んだので、取得総数が大幅に増加した。資格取得に対する生徒たちの意欲は高まっており、今後も計画的に指導していく。数年前から地元での就職について指導をおこなっており、今後も継続していく。				

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2 生徒会活動や部活動を活性化させ、人間性に富み、心身ともに健全で逞しい人づくりをめざす。	① 本校の運動部は、県高校総体・新人大会で団体・個人とも上位を目指し、高体連表彰取組を獲得する。	高体連基準総合得点が A 60点以上 B 50点以上60点未満 C 40点以上50点未満 D 30点未満	県総体、県新人大会の成績結果を検証 84.5点 評価：A	A評価基準をはるかにしのぐ84.5点を獲得した。昨年は56点なので28.5点のアップである。これにより悲願の高体連表彰取組を獲得した。これは6年ぶりとなり、本校が学年4クラスから3クラスに移行して以来初めてのことである。 次年度もさらなる不断の努力を重ね、TEAM羽工一丸となり総体優勝・取組賞受賞を目指したい。
	② 文化部で部活動への重複加入を奨励し、各部の取組や活動に生徒が積極的に取り組む。	文化部の活動に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	各文化部対象に 12月に調査 A：42% B：50% C：6% D：2% 評価：A・B合わせて92%	7月の調査と比較するとA37%→42%、B46%→50%、C12%→6%、D5%→2%でA・B合わせて83%→92%であった。これは9月末に羽工祭があり、その発表や展示にむけての活動や当日の評価に十分満足しているからと考える。 次年度も、この結果を検証しさらなる部活動の充実した活動を図り、より積極的に取り組ませたい。
	③ 生徒会を中心にして行事への参画意識を高め、自主的に参加する行事にする。	生徒会行事に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：37% B：56% C：6% D：1% 評価：A・B合わせて93%	7月の調査ではA・B合わせて93%で今回の調査結果と同じであった。これは非常に高い評価であり、昨年度の最終評価と比べると6ポイントアップである。今年度は年間を通して意識が高かったことがうかがえる。 次年度もさらなる工夫と多くの意見を取り入れ、生徒の自主性を高めたい。
	④ 保健だよりや集会、SH等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか A 常に意識している B ある程度意識している C あまり意識していない D まったく意識していない	生徒対象に 1月にアンケート調査 A：11% B：69% C：18% D：2% 評価：A・B合わせて80%	A・Bを合わせて80%と前回調査と同じ結果ではあったが、Dと答えた生徒が、前回の12人から6人と半減した。年間を通して昨年度より健康に対する意識が高かったという結果になった。また、冬季を中心に感染症予防に力点を置いてきたので、同時にインフルエンザ予防の理解についてアンケートを実施した結果90%を超える生徒が理解しているとの結果であった。 次年度も今年度同様、多様な方法で生徒の心身の健康管理について、意識の高揚を図りたい。
3 工業学習成果の提供や奉仕活動等を通して地域社会との連携を深め、環境問題や社会貢献に対する意識を高める。	① 社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、校外でも1日1善運動を推奨する。	1日1善運動について A 毎日必ず実践している B できるだけ実践している C あまり実践していない D 全く実践していない	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：16% B：61% C：21% D：2% 評価：A・B合わせて77%	7月の調査とほとんど同じ結果であった（A15%→16%、B62%→61%、C20%→21%、D3%→2%）。昨年度の最終調査と比べると、A・B合わせて72%→77%と5ポイントアップとなり、今年度は年間を通して意識が高かった。 次年度は、今年の取り組みを検証し、A・B合わせて80%を超えるようさらなる改善・工夫と不断の啓発活動を続けていきたい。
	② 社会生活を営む上で、ルールやマナーの必要性を理解させ、実践的指導により交通ルールとマナーを遵守する生徒を育てる。	自分自身の自転車乗車ルール（規則）について A ルールを守り安全に運転している B ルールをある程度守り運転している C ルールをあまり守らず運転している D ルールを守らず運転している	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：37% B：55% C：7% D：1% 評価：A・B合わせて92%	12月のアンケートではA・B合わせて92%であり、昨年度の最終結果86%、一昨年81%と比較すると全体的に交通ルールに対する意識の向上は伺える。 次年度も自転車乗車に関する意識の向上を高めるために、全校集会、学年集会、LH等を通して注意を促し、地域の関係機関と連携を図りながらより一層組織的に取り組んでいきたい。
	③ Webページの定期的更新間隔を短くし、学校全体の情報公開のスピードを上げる。また、教育活動や部活動のタイムリーな情報を発信し、更新状況等を分かりやすくする。	ホームページを更新した回数が A 50回以上 B 40回以上50回未満 C 30回以上40回未満 D 30回未満	各担当に 1月に調査 更新回数：61回 評価：A	1月までの各課・科や部活動のホームページ更新回数が61回となり、判定基準であるB評価（40回以上）を達成することができた。今年度は、よりタイムリーな情報発信を目的に、更新担当者がニュース集めに回るなどしたためであり、まだまだ職員自らの情報発信の意識が高くなっているとはいえ、更新しやすくまた情報検索しやすくなる工夫が求められている。 次年度は判定基準を10回増加させて、更に行事や部活動・学校の活動状況の掲載を増やすよう検討し、今後も教職員への情報発信をこまめに働きかけて目標達成に向けて努力していきたい。
	④ 環境保全のこれまでの取組を継続し、ゴミ分別等が正しく行われているかを評価し、美化意識の向上を目指す。	15点以上の教室が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満 環境保全（ゴミの分別・節水・節電等）に取り組んでいる割合が A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	ISO委員により 各学期 1回各教室を1週間調査（1日20点満点で評価） 15点以上の教室：100% 評価：A 生徒対象に 12月にアンケート調査 86% 評価：A	1学期17.1点、2学期18.4点、3学期18.6点と3回実施した調査ともクラス平均点はすべて高い水準であった。その結果評価はAであった。採点項目を細分化して実施したが、事前の放送による告知や掲示物、各担任の指導などが生徒の意識向上につながったと考えられる。 次年度は採点基準の見直しと、意識の定着を図るような取り組みを行い、引き続き取り組んでいきたい。 第2回目のアンケート調査で、取り組んでいる生徒の割合が86%であった。評価はAである。学年別では3年生の90%の生徒が取り組んでいると回答しているのに対し、2年生85%、1年生82%の回答であった。 1・2年生の意識向上を図るため次年度に向けて更に掲示物や昼食時の放送での啓発活動を行い、引き続き取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価	ホームページはよく更新されているが、PTA活動についての更新回数も増やしてほしい。羽咋駅のホームの壁画制作など、地域貢献活動が積極的に行われており、今後も継続して欲しい。羽咋工業の生徒は言葉遣いがしっかりしており、教師と生徒のコミュニケーションが日頃からしっかりとれている。卒業生たちも真面目な子が多く、今の学校の雰囲気を持してほしい。生徒指導がきちんと行われないと学業や進路指導にも悪影響があるので、より一層熱心に生徒指導に当たってほしい。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	ホームページの更新回数は本年度大幅に増加しており、今後はPTA活動についても積極的に更新する。部活動や生徒会の指導を熱心に行うことが生活指導につながっていくので、今後も部やクラス単位での「1日1善運動」を活性化させ、校外でも自然と善行が実行できるように指導する。来年度も高体連表彰取組獲得を目指し、部活動を充実させていく。			